

他誌掲載論文

農薬等のポジティブリスト化に伴う検査の精度管理  
に関する研究

田中之雄<sup>1</sup> 酒井 洋<sup>2</sup> 上野英二<sup>3</sup> 田中敏嗣<sup>4</sup>  
宇野正清<sup>5</sup> 宇治田正則<sup>6</sup> 佐々木珠生<sup>7</sup> 堤 泰造<sup>8</sup>  
衛藤修一<sup>9</sup>

厚生労働科学研究費補助金研究（食品の安心・安全確保推進研究事業）検査機関の信頼性確保に関する研究，18年度総括・分担研究報告書，19～122，2006  
9 地方衛生研究所による精度管理（外部精度管理及び内部精度管理）を実施した。

今回の精度管理の結果は良好であり，検査精度を維持・向上するための主な要因である「正確な（一定の）標準品」を用いて「適正な分析法」を実施し「良好な状態の分析装置」で測定することによって信頼性のある検査データが得られることが示唆された。

- 
- \*1：大阪府立公衆衛生研究所
  - \*2：新潟県保健環境科学研究所
  - \*3：愛知県衛生研究所
  - \*4：神戸市環境保健研究所
  - \*5：奈良県保健環境研究センター
  - \*6：和歌山市衛生研究所
  - \*7：広島市衛生研究所
  - \*8：徳島県保健環境センター
  - \*9：北九州市環境科学研究所

中国四国ブロックにおけるパルスフィールドゲル電  
気泳動法（PFGE法）の精度管理について

田中博<sup>\*1</sup> 蔵田和正 笠間良雄 他  
厚生科学研究費補助金新興再興感染症研究事業  
18年度総括・分担研究報告書，157～169，2007

食品由来感染症の細菌学的疫学指標のデータベース化に関する研究の一環として，パルスフィールドゲル電気泳動法（PFGE）の標準化とPFGEにより解析された画像を基盤とした分散型情報システム（パルスネット）構築のため，昨年度に引き続き，検査施設間における精度管理を実施した。

概ね良好な画像および解析結果が得られたが，今後も継続的なPFGEの精度管理が必要と考えられた。

- 
- \*1：愛媛県立衛生環境研究所

2006年非流行期に広島市でノロウイルス  
集団発生が継続した要因

野田 衛<sup>\*1</sup> 田中智之<sup>\*2</sup>

厚生科学研究費補助金（食品の安心・安全確保推進研究事業）「ウイルス性食中毒の予防に関する研究」班平成18年度総括・分担研究報告書，141～148，2007  
2006年5月から10月のノロウイルス（NV）非流行期に，広島市においてNV集団発生が継続した。その発生要因について，各事例の発生状況や疫学調査，検出NVの遺伝子解析に加え，感染症発生動向調査に基づく感染性胃腸炎報告数，病原体検出情報等を基に分析した。その結果，散発性胃腸炎患者の多発に由来する小児から大人への感染機会の増加，感染力が強い一方，不顕性感染を起こしやすい特徴をもつG11/4の流行，不顕性感染の食品取扱者からの食品二次汚染による食中毒の発生，回復患者による新たな集団感染の発生などが関与している可能性が考えられた。

- 
- \*1：現 国立医薬品食品衛生研究所
  - \*2：堺市衛生研究所

Human Sapovirus in Clams, Japan

Hansman GS<sup>\*1</sup> Oka T<sup>\*1</sup> Okamoto R<sup>\*2</sup> Nishida T<sup>\*2</sup> Toda S<sup>\*2</sup> Noda M<sup>\*3</sup> Sano D<sup>\*4</sup> Ueki Y<sup>\*5</sup> Imai T<sup>\*4</sup> Omura T<sup>\*4</sup> Nishio O<sup>\*1</sup> Kimura H<sup>\*1</sup> Takeda N<sup>\*1</sup>  
Emerg Infect Dis, 13, 620-622 (2007)

Human sapovirus was detected in 4 of 57 clam packages by reverse transcription-PCR and sequence analysis. This represents the first finding of sapovirus contamination in food. Closely matching sequences have been detected in stool specimens from patients with gastroenteritis in Japan, which indicates a possible food-to-human transmission link.

- 
- \*1 国立感染症研究所
  - \*2 山口県環境保健センター
  - \*3 現 国立医薬品食品衛生研究所
  - \*4 東北大学
  - \*5 宮城県保健環境センター

Evaluation of PCR-based identification and genotyping methods for the iap genes in *Listeria monocytogenes* and other *Listeria* spp.

Ishimura K, Inoue S<sup>\*1</sup>, Kayashima T<sup>\*2</sup>, Yoshinotani S<sup>\*2</sup>, Itoh F, Kasama Y, Matsumoto M<sup>\*3</sup>, Ogino T<sup>\*3</sup>  
Jpn J Food Microbiol, 23(4),148 ~ 154,2006

By using 181 *Listeria* spp. strains except for *L. ivanovii*, we evaluated the three distinct PCR methods targeting the iap genes encoding p60 proteins for genus or species identification, and the PCR-RFLP analysis for genotyping. Each of the two species-specific PCR methods yielded the expected amplicons from all of the 126 *L. monocytogenes* and 43 *L. innocua* strains tested. The genus-specific PCR method amplified the target regions (about 1.4 kb) from 178 *Listeria* strains other than 3 *L. grayi* strains tested. The PCR-RFLP analysis with either Hha or Hind showed distinct several patterns.

---

\*1 : 国立感染症研究所

\*2 : 現 社会局保健部食品保健課

\*3 : 退職

#### 国内感染と考えられたコレラ菌 0139 初発事例 - 広島市 -

蔵田和正 谷口正昭<sup>\*1</sup> 吉野谷進<sup>\*2</sup> 渡邊朱美  
国寄勝也 石村勝之 笠間良雄 松本 勝<sup>\*1</sup>  
荒川英二<sup>\*3</sup> 寺嶋 淳<sup>\*3</sup> 渡辺治雄<sup>\*3</sup>

病原微生物検出情報, 28, 86 ~ 88, 2007

2006年9月, *Vibrio cholerae* 0139 による1名の患者発生があった。患者は配偶者と二人暮らしで、両名ともに海外渡航歴はなく、国内で感染したものと考えられた。喫食調査から、発症前に刺身を頻回に喫食していたことが判明したが、感染原因については特定できなかった。

本邦において,コレラ菌 01 については約2割が国内感染と考えられるが,0139 では当該事例が初めての報告と考えられる。今後は,0139 についても国内での感染動向に一層注視しておく必要がある。

---

\*1 : 退職

\*2 : 広島市保健所食品保健課

\*3 : 国立感染症研究所

#### 腸管出血性大腸菌 0157:H7 感染事例由来株の分子疫学的解析法の検討

-MLVA とパルスネットのパターン比較-

渡邊朱美 国寄勝也 蔵田和正 石村勝之,  
笠間良雄 松本 勝<sup>\*1</sup> 吉岡嘉暁

厚生科学研究費補助金新興再興感染症研究事業  
18年度総括・分担研究報告書, 177 ~ 194, 2007

腸管出血性大腸菌 (STEC) 感染事例の迅速で詳細な解析が可能な分子疫学的解析法の確立を目的に, MLVA 法の解析に有効なプライマーの検討を行った。その結果, パルスネットパターン No.間や同一パルスネットパターン No.内の区別に用いられるプライマーの有効な組み合わせが示唆された。

---

\*1 : 退職

#### Genetic characterization of a multidrug-resistance in *Shigella* spp. from Japan

Ashraf M. Ahmed<sup>\*1</sup>, Furuta K<sup>\*2</sup>, Shimomura K<sup>\*3</sup>, Kasama Y, Shimamoto T<sup>\*1</sup>

J Med Microbiol, 55, 1685 ~ 1691, 2006

This study characterized the genetic basis of antimicrobial resistance of *Shigella* spp. from humans from 2000 to 2004 in Hiroshima city. PCR and DNA sequencing revealed that a *S. sonnei* strain had a class 1 integron which had a cassette containing esterase/lipase (estX) and aadA1 gene. Two types of class 2 integron were identified in this study. One type had the classic type of the cassette, conserved 3 resistance gene (dfrA-sat1-aadA1). The other type one had shorter cassette (dfrA1-sat1). *S. flexneri* recently isolated in Hiroshima city possessed a ESBL gene, bla<sub>OXA-30</sub>, suggesting the expanding of this type of resistance gene.

---

\*1 広島大学大学院生物圏科学研究科

\*2 現 社会局保健部食肉衛生検査所

\*3 現 社会局保健部食品保健課

広島湾北部における有機スズ代替船底防汚剤による  
海域の汚染状況について

常政典貴<sup>\*1</sup> 橋本和久 山岡雄一郎 上野博昭  
岡村秀雄<sup>\*2</sup>

環境化学, 16, 201 ~ 211, 2006

船舶や漁網用の防汚剤として長年用いられてきた TBT 等の有機スズ剤は、水圏生態系に対する慢性影響が懸念され、我が国においては、1997 年以降 TBT 含有塗料の製造が中止された。一方、それに代わる代替船底防汚剤が世界中で使われることになり、海水への残留を示す調査結果が報告され始めている。当所では、2002 年度から 3 年間広島湾北部のマリーナ、漁港、海域の環境基準点及び河川において、代替船底防汚剤の濃度を調査した。

その結果、マリーナ、漁港、海域の環境基準点の海水から Irgarol ,M1 (Irgarol の分解物) ,Diuron , Seanine211 が検出され、広島湾北部でも代替船底防汚剤による汚染が明らかとなった。

---

\*1：現 環境局環境保全課

\*2：神戸大学海事科学部海洋環境管理研究室